

## 第5章 戦略の理念と目標

### 1 理念

すべてのいのちが共生する兵庫を私たちの手で未来へ

私たち兵庫県民は、阪神淡路大震災を経験し、自然への畏敬や自然との共生の大切さを改めて認識するとともに、ボランティアや協働の大切さを実体験として学びました。震災がもたらしたものは負の側面が大きいものの、緑が持っている防災上の効果などを実感し、自然環境がもたらす安心感、安らぎや癒しの効果に気づくきっかけとなりました。また、内外から駆けつけたボランティアの活動は様々な分野へと広がりを見せ、自然環境の保全・創造という分野でも、専門家と市民ボランティアが連携して緑の再生活動の輪を広げ、今日に至るまでその活動が続けられています。私たちは、震災により真の豊かさとは何かを一人ひとりが自分自身に問いかけたはずで、その豊かさは決して物質的満足でなく、生かされているという生への感謝と、私たちを生かしてくれている自然と共生しながら生きることから感じる豊かさ、そしてお互いがつながり、支えあうことの大切さではなかったでしょうか。

50年前の昭和30年代の日本には、どの河川流域でも「蛍」が乱舞し、子どもたちは小川や田んぼでフナやドジョウやメダカ、里山や雑木林に入ればカブトムシやセミを捕まえて遊んでいました。こうした多くの生命があふれる自然環境は、農業や林業等を通じた自然への人間の働きかけにより育まれたものでした。今、過去と同じような人間と自然との共生関係に戻すことは困難ですが、人間生活と自然との共生のために新しいかわり方を考えていかなければならない時期にきています。

自然の豊かな恵みは、いのちの支えあいによってもたらされていることを理解し、日々の生活では忘れがちになる自然への感謝の気持ちをしっかりと心に刻み、人の営みと自然との調和のもとに、すべてのいのちが共生する兵庫を私たちの手で未来に引き継いでいかなければなりません。

## 2 目標

私たちは100年後の兵庫県が、生物多様性の保全と持続可能な利用を実現するため、本戦略で次のような社会の実現を目指します。

### (1) いのちの大切さを基本に、参画と協働のもとで多様な生物を育む社会

生物多様性が人類を含むすべての生物にとって重要であることを県民が共通認識として持つことが重要です。

私たちは、家庭や学校、地域において環境教育や環境体験学習の取組を進め、生命の大切さを学び、多様な主体の参画と協働による生物多様性の保全・再生の取組を通じて、社会全体で生物多様性を育むことのできる社会を目指します。

### (2) 人の営みと自然が調和し、多様な生物のいのちのつながりと恵みが循環・持続する社会

生物多様性が持っている水源涵養や土壌浸食防止などの防災機能の充実、生物多様性の恵みに支えられている農林水産業や企業活動の振興などの取組を進めることが重要です。また、企業による生物多様性を支えるための支援や取組、消費者による生物多様性を支える活動も重要です。

私たちは、生物多様性と人間社会の双方が持続的に発展する自然と調和した社会を目指します。

### (3) 地域性豊かな自然と文化を守り育てる社会

地域の特色ある風土は、それぞれの地域固有の生物多様性と深く関係し、さまざまな食文化、工芸、芸術などを育んできました。地域の豊かな生物多様性に支えられる文化の多様性は、私たちの豊かな生活の基盤であり、地域固有の自然環境やそこに生息・生育する生物を守り続けることが重要です。

私たちは、地域において身近な自然と日常的に接し、地域の豊かな自然と文化を地域固有の財産として守り育てる社会を目指します。